

## the XV European Biological Rhythms Society Congress に参加して

原口敦嗣<sup>✉</sup>

早稲田大学大学院 先進理工学研究科 生理・薬理学研究室

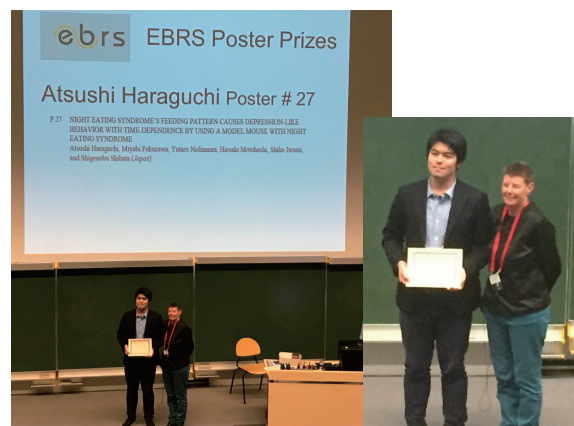
2017年7月30日から8月3日まで、オランダ・アムステルダム郊外のThe Academic Medical Center (AMC)にて開催されたthe XV European Biological Rhythms Society Congress (EBRS 2017)に参加してきました。初日の若手 Trainee Dayに始まり、20のセッションと80演題のショートコミュニケーション(口頭発表)、9つのレクチャー、約140演題のポスター発表が開催期間中に行なわれました。

EBRS 2017は私にとって2回目の国際学会でした。3年前のSRBRが初めての国際学会でしたが、その時は初めての全編英語でのセッションと時差ボケによる眠気に苦しんだ記憶があります(笑)。しかし、今回は時差ボケもほとんどなく学会に参加することができました。私が所属する柴田重信研究室では多くの学生が時間生物学と食事や栄養学の関連に着目して研究を行っているため、本学会ではそれらに関連するセッションやレクチャーに積極的に参加しました。各セッションやレクチャーではまだ論文化されていない内容も含めた最新の研究が体系的に報告されており、有意義な時間を過ごすことができました。2日目最後に行なわれたSalk Institute for Biological StudiesのSatchin Panda先生によるレクチャーでは、ハエやマウスを制限給餌条件下で飼育した際の代謝や心疾患系への影響に関する基礎研究から、携帯アプリを使用した大規模な食事タイミングに関する調査研究に至るまで、幅広い内容について報告されていました。その中でも、携帯アプリを用いた研究は、日本では見かけない規模での研究だったため衝撃を受けました。

5日間の本大会を通して感じたことは、今まで参加してきたどの学会よりもヒトを対象に食事のタイミングに着目して行なった研究に関する報告が多くなされていたことです。食事タイミングと体重推移

との関連や、夕食のタイミングと耐糖能の関連、遺伝子のSNPと食事タイミングに関する調査研究などがあり、私が所属する柴田研では近年ヒト試験にも力を入れていることから、今後どのようなヒト試験を行う必要があるか、改めて体系的に考えることができました。

本学会で私はポスター発表を行ないました。私のポスター発表は本大会初日にあったのですが、日本時間生物学会学術大会やSRBRよりもEBRSの発表時間は長く設定されており、昼休憩の90分と一日のセッションが全て終わった後の90分の二部構成になっていました。どちらの時間帯も研究内容に興味を持った方に来て頂き、今後の実験内容に関して議論することができました。また夜の時間帯のポスター発表の時間には、LMU MunichのMartha Merrow先生を始めとした4人の先生に来て頂き、2分間という短い時間でポスターの内容を説明するという体験をしました(後にこれがポスター賞の本選考だったと知る)。著名な先生達に囲まれ足が震えるぐらい緊張しましたが、2分間でなんとか説明できたことは自分の中で自信になりました。またそれ



ポスター賞受賞時(Debra J. Skene先生と)

✉hmar.h@fuji.waseda.jp



左上：ツアー中の一コマ（左から2番目が筆者）  
 左下：住宅として利用されている船  
 住居として登録されている船にはちゃんと水道やガス管が通っているらしい  
 右：Congress dinnerでの1枚(左から東京大学深田先生、京都大学土居先生、筆者)

以外にも、University of WarwickのNicholas Dale先生の方からお声かけ頂き、内容に関して議論できたことは良い思い出となりました。最終的に、6演題しか選ばれないポスター賞に選ばれたことは大変光栄なことであり、今後も研究を頑張っていく励みになりました。

最後に本大会以外のこと（主に観光で筆者にとっては学会期間中の唯一の息抜き）のことについて書きたいと思います。オランダの首都アムステルダムにはクモの巣状に運河が造られており、車や電車と同じように人の足として船が利用されていました。この運河を利用して古くからあるレンガ造りの橋や東京駅のモデルとなったセントラル駅を回るツアーに、日本からEBRSに参加していた先生方と参加してきました（EBRSからツアーの無料招待券が参加者全員に配られていた！）。ツアー中に通った運河の両脇にはレンガ造りの家や橋と共に、住宅として利用されている船が多くあり、オランダらしい風景を満喫できる1時間でした。

また、ツアーの後にはハイネケン・エクスペリエンス（ビールで有名なHeinekenのミュージアム）にも行ってきました。Heinekenのビールを3杯飲むだけでなく、ビール作成に関する原理などの詳しい説明や製造途中の水と麦だけ混ぜた状態の飲み物の試飲（ネットではお粥の様と例えられていた）ができ、ちょっとしたアトラクションも随所にあっただけで、アルコールが全く飲めない自分でも十分に楽しめたミュージアムでした。

本大会中は、日本から参加していた先生方に気軽に話しかけていただきました。普段だったら話すこ

とも恐れ多いような先生方に自分の名前や研究内容について覚えて頂けたこと、また普段の研究室のことや今後の研究に関することなど幅広く話せたこと・人脈を助けられたことは、自分にとってとても重要な時間・機会となりました。

最後になりましたが、普段より自分の研究を温かく見守ってくださる柴田先生、いつもサポートしてくれる柴田研のスタッフ・学生のみならず、今回このような参加記への投稿機会をいただきました近畿大学重吉先生・明治薬科大学駒田先生、また日本時間生物学会の関係者の方々にもお礼申し上げます。